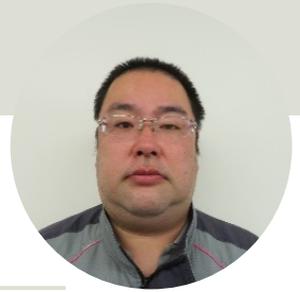


令和4年度 電気電子部門 技術士合格体験記

熊谷 航 様



“指導を受けなければずっと気づくことができなかつた”

◎はじめに

技術士2次試験を受験するにあたり、多くの人は、指導技術士等から4年間の指導を受けずに7年の実務経験をもとに受験するといわれています。いわば、教習所に通わず運転免許の一発合格するということ、技術系最高峰の試験でやるというかなり難易度の高いチャレンジです。険しい道のりですが本講座を受講することにより、無事合格できました。その体験談を皆様にお伝えできればと思います。

◎受験動機

障害者施設の防犯システム提案時に、倫理上の問題に対応できずに悩んだことがきっかけです。医療福祉業界では、倫理規範がトレードオフになる「倫理的ジレンマ」という概念が存在します。防犯システムの例では、「人命保護」、「プライバシー保護」の2つがあり、どちらかを犠牲にすることは許されません。技術者としてどのように課題と向き合うべきか模索している中で、技術士という資格に出会い受験を決意しました。

◎受験対策

受験対策講座を受講すると、自分の癖や、考え方の偏りが露呈し、なかなか修正できずに苦労しました。私の場合は、解決策ばかりに目が行き、なぜその方法を選択したのかといった、分析や評価を省略して答案

を書いていました。これは、対策講座を受講して先生方から指導受けなければずっと気づくことができなかつたと思います。指摘を受けた後は、答案作成だけではなく、普段の業務においても結論を急がず、多面的な観点から見るということを意識的に行いました。その結果、当初は徐々に点数が上がっていき、筆記試験ではオールAで合格できました。

口述試験は模擬面接で、情報通信の科目は口述試験の合格率が低く、システムの高度な領域の回答をすると、情報工学部門と混同されるとのアドバイスをいただき、業務経歴に関する回答方法を見直し試験に臨みました。試験官の質問内容は、模擬面接と似た質問が多くあったため、落ち着いて回答することができました。

◎おわりに

技術士試験は、1次試験申し込みから2次合格発表まで最短でも2年かかる非常に長い試験です。一人で勉強していると心が折れそうになることも多々あるかと思います。各地域の技術士会で修習技術者向けの交流会等が開催されており、他の修習技術者や先輩技術士と交流することで新たな視点や価値観と出会うことができます。受験に対するモチベーションを維持するためにも是非積極的に参加していただければと思います。